福岡教育大学紀要, 第65号, 第3分冊, 45-56 (2016)

フラックス法によるルビーとサファイアの合成

Syntheses of ruby and sapphire by flux-method

上野	禎 一	\mathbb{H}	浦	靖	子		原	\blacksquare	土	輔
Teiichi U	JENO	Ya	asukoʻ	TAUR	А		Keis	uke l	HARA	DA
	中 矢 Toru	ٱ NAKAY	散 A	名 Ti	ک aichi ′	们太 TANIG	 AWA	À		
	原 Kohe	光 习 ei HARA	۲ I	F Iso	更 Proku	睪 五 NAGAS	、 ティン SAW	A		
		福岡教育	育大学	理科教	教育 講	極				

Abstract

(平成27年9月25日受理)

Syntheses of ruby and sapphire were performed by flux-method.

As for the synthesis of ruby, the using flux is PbO-PbF₂, and the coloring reagent is Cr_2O_3 . In almost all runs, hexagonal thin platy transparent crystals were obtained. The total color is light pink, and the center part of crystal shows red color. As by-products, light brown platy-hexagonal form of PbAl₁₂O₁₉ crystal and light pink octahedron form of PbAl₂O₄ crystal (spinel type) were also obtained, which were synthesized by the reaction between Al₂O₃ and flux component (Pb).

As for the synthesis of sapphire, the using fluxes are MoO₃, MoO₃-Li₂O and PbO-PbF₂, and the coloring reagent is Fe_2O_3 . In the case of the only MoO₃ flux, light blue, and in the case of the MoO₃-Li₂O flux, dark blue platy-hexagonal sapphire crystals were obtained. In the case of the PbO-PbF₂ flux, from transparent to light blue platy-hexagonal sapphire crystals were gained, and light brown platy-hexagonal form of PbAl₁₂O₁₉ crystal was also obtained as like as the case of the synthesis of ruby.

I. はじめに

赤色の宝石ルビーと青色の宝石サファイアは、共にアルミナ(Al₂O₃)を主成分とする鋼玉(コランダム) と呼ばれる姉妹鉱物である。主成分 Al₂O₃に加えて微量のクロム(Cr₂O₃)が入ると赤色を呈しルビーとい われ、鉄(Fe₂O₃)又はチタン(TiO₂)が入ると青色を呈してサファイアと呼ばれている。(尚、赤色系統 以外のコランダムは、すべてサファイアと呼ばれている。)アルミナは白色粉末で工業的には研磨剤として 利用されているが、その結晶であるコランダムは、モース硬度9と、地球上ではダイヤモンドに次ぐ硬度を 誇り、ルビー・サファイアをその透明で鮮やかな美しさと共に、宝石としての地位を不動のものとしてい る。菱面体晶系(三方晶系)である為に三方向に光彩(星彩)が生じている結晶をカボッションカットした

上野禎一・田浦靖子・原田圭輔・中矢 徹 谷川太一・原 光平・長澤五十六

ものは、スタールビー・スターサファイアと呼ばれ人気の石となっている。原産地は、ルビー・サファイア 共、タイ・ミャンマー・スリランカ・カンボジア等の東南アジア、タンザニア・マダカスカル等のアフリカ であるが、サファイアはカシミール地方及びオーストラリアでも産し、特にカシミール産のブルーサファイ アはコーンフラワーブルーと呼ばれ、宝石市場では高値で取引が為されている。宝飾品以外の利用として、 ルビーは赤色発光レーザー・LED として、又サファイアはその高硬度ゆえに、レコード針・トラックボー ル・腕時計の軸受け・時計グラス等に利用されている。

今回フラックス法を用いて、天然に産するような赤色のルビー及び青色のサファイアの結晶の合成を試行してみた。ルビーに対してはフラックスとして PbO-PbF₂を、又着色剤として Cr₂O₃を、サファイアに対してはフラックスとして MoO₃、MoO₃・Li₂O 及び PbO-PbF₂を、又着色剤として Fe₂O₃を用いて合成実験を行ったところ、それぞれ、透明赤色~ピンク色のルビー結晶、透明淡青色~濃青色のサファイア結晶及び興味ある副産物が得られたので、それらの結晶形態、表面構造、結晶成長模様、色、及び結晶学的特徴を合わせて報告することとした。

Ⅱ. 先行研究

ルビー結晶のフラックス法による合成としては、大石他(1997)の PbF₂·B₂O₃系フラックスを用いた研 究と大石他(2006)の MoO₃·Li₂O 系フラックス等を用いた研究が有り、前者では赤色透明な六角薄板状 の結晶、後者では赤色透明な六方両錐形の結晶が得られている。コランダム結晶のフラックス法による最 近の合成研究としては、田邊・阿部(2012)が、MoO₃·Li₂O 系フラックスを用いて、最高温度1,050℃、 Li₂O:MoO₃=1:2、Al₂O₃の量をフラックスに対して 5wt.% の条件で、良質の結晶を得ているという報告があ る。彼らが生成した結晶は、c(0001)、r(10-12)、n(11-23) 面発達のもので、Cr³⁺ や Ti⁴⁺ を Al₂O₃ 比で 1wt.% 加えた実験では、それぞれ、0.2mm 大のピンク色、1mm 大の無色結晶を得ている。又、中尾・阿部(2013) は、MoO₃-Li₂O 系フラックスを用いた実験を進め、Al₂O₃ に Ti⁴⁺、Cr³⁺、Fe³⁺、La³⁺ をそれぞれ Al₂O₃ 比で 1wt.% 加え、1,100℃-100hs の加熱条件で合成を行い、Ti⁴⁺、Fe³⁺、La³⁺ での場合 0.5 ~ 1.5mm 大の無色の結 晶を又 Cr³⁺の場合 0.5 ~ 1.5mm 大のピンク色の結晶を得、それぞれ結晶表面の微形態を SEM にて観察し ているが、赤色及び青色のコランダムは得ていない。上野他(2013)は、PbO-PbF₂ 系フラックスを用いた 合成実験を試み、赤色~ピンク色のルビー結晶と副産物、淡褐色の PbAl₁₂O₁₉ 結晶と淡ピンク色 PbAl₂O₄ 結 晶を得ており、又上野他(2014)、原・上野(2015)は、MoO₃、MoO₃-Li₂O 及び PbO-PbF₂ フラックスを 用いた合成実験を試み、青色のサファイア結晶と副産物、淡褐色の PbAl₁₂O₁₉ 結晶を得ている。

Ⅲ. 実験

今回,我々はルビーに関しては、PbO- PbF₂系フラックスを用いた合成実験を追加して行ってみた。主 成分の Al₂O₃ に着色剤として Cr₂O₃ を主成分量の重量比で 0.8 ~ 4.9%になるように添加し、さらにフラッ クスとして PbO と PbF₂ を主成分 + 着色剤の全体量に対して重量比で 13 ~ 14 倍程度に調整したものを出 発物質とし、白金ルツボに入れ加熱試料とした。又、サファイアに関しては、主成分の Al₂O₃ に着色剤とし て Fe₂O₃ を主成分量の重量比で 0.8 ~ 15.6%になるように添加し、さらにフラックスとして MoO₃、MoO₃-Li₂O 及び PbO-PbF₂ を主成分量に対して重量比でそれぞれ、4.7 倍、14.4 倍、7 ~ 28 倍程度に調整したもの を出発物質とし、白金ルツボに入れ加熱試料とした。合成実験及び生成した結晶の処理は上野他(2012)と 同様の方法を用いた。加熱温度は、1,050 ~ 1,100℃で、加熱期間は7~14days である。

Ⅳ. 合成実験結果

(1) ルビーの合成実験及び同定結果

Table 1 に,フラックス法によるルビーの合成実験の結果を示す。出発物質の内,主成分の Al₂O₃ は,何 れも 1.020g(10mmol) で,着色剤の Cr₂O₃ は,0.008 ~ 0.050g の間で 6 通りに変化させている。フラックスは、PbO を 6.866g(30mmol), PbF₂ を 7.528g(30mmol) と固定して投与している。昇温率は 4C/min ~ 12C/min と変化させているが、降温率は 5C/min に固定している。加熱最高温度は,1.050 ~ 1.100Cと変

46

Run Nos.	Reactants	$Temperatures({}^{\circ}\!\!{}^{\circ}\!\!{}^{\circ})$	Heating hours	Products	Crystal form, size, color etc.
RUB-YT4-1	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020g\\ Cr_2O_3 = 0.008g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g \end{array}$	20 ↓ 8℃ /min 1,050 ↓ 5℃ /min 400	72	Ruby	hexagon plate, max.1.0mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
	$Cr_2O_3 : 0.8 \text{ wt.\%}$				
RUB-YT4-2	$Al_2O_3 = 1.020g$ $Cr_2O_3 = 0.012g$ PbO = 6.866g $PbF_2 = 7.528g$	20 ↓ 4℃ /min 1,100 ↓ 5℃ /min 400	72	Ruby	hexagon plate, max.0.6mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
	$Cr_2O_3 : 1.2 \text{ wt.\%}$				
RUB-KH1	$\begin{array}{l} Al_{2}O_{3} = 1.020g\\ Cr_{2}O_{3} = 0.009g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_{2} = 7.528g\\ Cr_{2}O_{3}: 0.9 \ \text{wt.\%} \end{array}$	20 ↓ 10℃ /min 1,100 ↓ 5℃ /min 400	48	Ruby PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.1.0mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, transparent aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
RUB-KH3	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020g\\ Cr_2O_3 = 0.009g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g\\ Cr_2O_3: 0.9 \ wt.\% \end{array}$	20 ↓ 4℃ /min 1,100 ↓ 5℃ /min 400	72	PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.1.0mm grain, transparent, aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
RUB-KH4	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020g\\ Cr_2O_3 = 0.009g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g\\ Cr_2O_3: 0.9 \ wt.\% \end{array}$	20 ↓ 12℃ /min 1,100 ↓ 5℃ /min 400	72	Ruby PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagonal plate, max.1.0mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
RUB-KH6	$Al_2O_3 = 1.020g$	20		Ruby	hexagon plate, max.1.0mm grain,
	$Cr_2O_3 = 0.009g$ PbO = 6.866g $PbF_2 = 7.528g$ $Cr_2O_2 : 0.9 \text{ wt.}\%$	↓ 12°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	96	PbAl ₁₂ O ₁₉	light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
RUB-KH9	$Al_2O_3 = 1.020g$	20		Ruby	hexagon plate, max.1.0mm grain,
	$Cr_2O_3 = 0.020g$ PbO = 6.866g PbF ₂ = 7.528g $Cr_2O_3 : 2.0$ wt.%	↓ 12°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	144	PbAl ₁₂ O ₁₉	light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
RUB-KH10	$Al_2O_3 = 1.020g$	20		$Pb(Al, Cr)_2O_2$	4 tetrahedron (spinel structure), max.1.0mm grain,
	$Cr_2O_3 = 0.040g$ PbO = 6.866g $PbF_2 = 7.528g$ $Cr_2O_3 : 3.9 \text{ wt.\%}$	↓ 12°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	72	Ruby	light pink (transparent), spinel twin hexagon plate, max.1.0mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
RUB-KH11	$Al_2O_3 = 1.020g$	20		$Pb(Al, Cr)_2O_2$	tetrahedron (spinel structure), max.1.0mm grain,
	$Cr_2O_3 = 0.050g$ PbO = 6.866g $PbF_2 = 7.528g$ $Cr_2O_3 : 4.9 \text{ wt.\%}$	↓ 12°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	168	Ruby	light pink (transparent), spinel twin hexagon plate, max.1.0mm grain, light pink (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane

Table 1. Results of the synthetic experiments for Ruby by flux-method

化させ、最高温度での加熱期間は、最小48時間から最大168時間に変化させている。

9回中8回のrunで、六角薄板状の赤色~淡ピンク色の透明結晶を得ており(Figs.1A, 1B, 1C & 1D), X 線回折によりコランダムの回折ピークを確認しているので(Table 2),ルビーが生成されていると結論され る。Figs.1A, 1B, 1C は、いずれもrun no. RUB-YT4-2で得られた結晶の実体顕微鏡写真である。Fig.1A に 示す透明な二枚の六角薄板状連晶は、最大一辺が0.4mm 程の大きさで、結晶中央部に玉状の赤い部分が見



1mm

1mm

Fig. 1. Stereoscopic photographs.

- (A) ruby ((RUB-YT4-3), (B) ruby (RUB-YT4-2), (C) ruby (RUB-YT4-8)
- (D) ruby (RUB-KH10-R), (E) PbAl₁₂O₁₉-phase (RUB-KH4-2),
- (F) PbAl₂O₄-phase (RUB-KH10-S)

			0			
	1			2		
d(Å)	Ι	hkl	$d_{\text{obs}}(\text{\AA})$	$d_{\text{calc}}(\text{\AA})$	Ι	
3.479	75	012	3.501	3.483	59	
2.552	90	104	2.563	2.551	84	
2.379	40	110	2.389	2.384	35	
2.165	1	006				
2.085	100	113	2.092	2.088	100	
1.964	2	202				
1.740	45	024	1.745	1.742	40	
1.601	80	116	1.600	1.602	31	
1.546	4	211				
1.514	6	122	1.514	1.517	7	
1.510	8	018	1.509	1.510	4	
1.404	30	214	1.407	1.406	25	
1.374	50	300	1.376	1.376	37	
Rhombohedral, R3c		Rhom	Rhombohedral. $R\overline{3}c$			
(hexagonal)		(hez	(hexagonal)			
a = 4.758(Å)		a =	a = 4.767(3) (Å)			
<i>c</i> =	12.991 (Å)	<i>C</i> =	= 12.98(2)	(Å)	

Table 2. X-ray powder-diffraction data for Ruby (corundum), Al₂O₃

1, JCPDS Card No. 10-173 corundum, syn; 2, This study (Sample No.=RUB-KH-4)





(A) ruby (RUB-KH6-11), (B) PbAl₁₂O₁₉-phase (RUB-KH6-1),
(C) PbAl₂O₄-phase (RUB-KH10-1), (D) PbAl₂O₄-phase (RUB-KH11-1)

15kV

WD13m

50

られ、Cr が濃集していると思われる。Fig.1B は複 雑な連晶をしたもので,透明な六角薄板状結晶の一 辺が最大 0.3mm 程で,やはり結晶中央部に玉状の 赤い部分が見られる。Fig.1C は最大一辺が 0.5mm 程の透明な六角薄板状結晶 3~5 枚の連晶を示して おり,全体的にややピンク色を帯び,やはり結晶中 央部に玉状の赤い部分が見られかつ結晶成長模様も 認められる。Fig.1D は,run no. RUB-KH10 で得ら れた結晶の実体顕微鏡写真であるが,ややオレンジ 色を帯びた淡ピンク色の透明な単結晶の集合体で, 最大 1mm 程の大きさでやや厚みを持った六角板状 結晶となっている。走査型電子顕微鏡により観察す ると,(0001)面上に結晶成長模様が認められ,三 角形の成長丘が多数観られる(Fig.2A)。

Run nos. RUB-KH1, KH3, KH4, KH6, KH9の実 験では、主成分とフラックス成分の反応により形成 されたと考えられる PbAl₁₂O₁₉(六方晶系)の結晶 が,及びRun nos. RUB-KH10, KH11の実験では, PbAl₂O₄(立方晶系,スピネル構造)の結晶が得ら れた。Fig.1E に, 淡褐色透明六角板状 PbAl₁₂O₁₉結 晶の実体顕微鏡写真を示す。六角板状であったの で、最初はルビーの結晶かと思われたが、X線回 折の結果 (Table 3), 六方晶系の PbAl₁₂O₁₉結晶で あることが判明した。PbO+6Al₂O₃→PbAl₁₂O₁₉の 反応で生成したと考えられる。Fig.2B に, Run no. RUB-KH6 で合成された PbAl₁₂O₁₉結晶の SEM 像 を示す。一枚の六角板状結晶表面((0001) 面)上 に数多くの六角形の結晶成長模様を認めることが出 来る。又,正八面体及び貫入双晶をなす薄ピンク 色の結晶を, RUB-KH-10,11 の 2 つの run で得られ た (Fig.1F) が, X 線回折の結果 (Table 4), 立方 晶系のスピネル構造を持つ結晶であることが判明し た。Fig.2C に Run no. RUB-KH10 で合成された正 八面体単結晶, 又 Fig.2D に Run no. RUB-KH11 で 合成された複数のスピネル式貫入双晶を表す SEM 像を示す。PbO+Al₂O₃→PbAl₂O₄の反応で生成し たと考えられるが、淡ピンク色を呈することから、 Al の一部を Cr が置換して着色していると考えら れ, 化学組成は Pb(Al,Cr)₂O₄ と示すのが妥当であ ろう。

(2) サファイアの合成実験及び同定結果

Table 5 に、フラックス法によるサファイアの 合成実験の結果を示す。出発物質の内、主成分の Al₂O₃ は、1.020 ~ 1.032g(10 ~ 10.1mmol)の間で4 通りに変化させ、着色剤の Fe₂O₃ は、0.008 ~ 0.160gの間で7 通りに変化させている。フラックスは、 MoO₃ のみを用いた run では、4.803g(33mmol)、

Table 3. X-ray powder-diffraction data for PbAll₂O₁₉

徹

	1			2	
d(Å)	Ι	hkl	$d_{\text{obs}}(\text{\AA})$	$d_{\text{calc}}(\text{\AA})$	Ι
11.00	80	002	11.27	11.10	100
5.47	10	004	5.58	5.55	32
4.70	80	101	4.76	4.72	17
4.41	55	102	4.46	4.43	16
4.02	35	103	4.07	4.04	8
3.66	45	006	3.71	3.70	79
3.62	25	104			
3.24	25	105	3.28	3.27	10
2.778	70	110	2.798	2.788	32
2.746	35	008	2.769	2.774	52
2.693	30	112	2.715	2.704	11
2.627	100	107	2.653	2.650	53
2.479	85	114	2.497	2.491	32
2.390	16	201			
2.286	45	203	2.300	2.295	13
2.198	45	0010	2.215	2.219	35
2.176	8	109	2.191	2.196	7
2.112	55	205	2.125	2.121	18
2.011	30	206	2.023	2.022	13
1.955	8	118	2.010	1.967	6
1.846	16	1011	1.858	1.862	9
1.813	8	211			
1.766	10	213			
1.723	16	1110	1.726	1.736	7
1.714	16	209			
1.682	6	215			
1.604	8	300	1.600	1.610	6
1.575	25	217	1.578	1.582	17
1.538	30	304	1.546	1.546	16
1.391	25	220	1.396	1.394	11
Hexagor	nal P63	/mmc	Hexago	onal P63	/mmc
a = 5	5.554 (Å)		a =	5.576(9)(Ă)
c = 2	21.94 (Å)		c =	22.19(7)(Ă)

1, JCPDS Card No. 20-558;

2, This study (Sample No.=RUB-KH3)

Table 4. X-ray powder-diffraction data for Spinelphase, Pb(Al, Cr)₂O₄

	1			2	
d(Å)	Ι	hkl	$d_{\text{obs}}(\text{\AA})$	$d_{\text{calc}}(\text{\AA})$	Ι
4.66	35	111	4.711	4.678	19
2.858	40	220	2.873	2.865	24
2.437	100	311	2.448	2.443	90
2.335	4	222	2.336	2.339	3
2.020	65	400	2.027	2.026	57
1.650	10	422	1.654	1.654	6
1.5554	45	511	1.5595	1.5593	35
1.4289	55	440	1.4317	1.4323	100
1.3662	4	531	1.3694	1.3696	2
Cubic, Fd3m			Cubic	, Fd3m	
a = 8.0831 (Å)			<i>a</i> =	= 8.102(2)	(Å)

1, JCPDS Card No. 21-1152 Spinel, syn MgAl₂O₄

2, This study (Sample No.=RUB-KH11)

Run Nos.	Reactants	$\mathrm{Temperatures}(\mathbb{C})$	Heating hours	Products	Crystal form, size, color etc.
SAP-TN2	$Al_2O_3 = 1.020g$ $Fe_2O_3 = 0.017g$ $M_0O_3 = 4.803g$ $Fe_2O_3 : 1.7wt.\%$	20 ↓ 3°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	192	Sapphire	hexagon plate, max.0.3mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-TN5	$\begin{array}{l} Al_{2}O_{3} = 1.032g\\ Fe_{2}O_{3} = 0.027g\\ MoO_{3} = 4.803g\\ Fe_{2}O_{2}: 2.6 \text{wt}\% \end{array}$	20 ↓ 36°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	192	Sapphire	hexagon plate, max.0.7mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-TN6	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.025g\\ Fe_2O_3 = 0.019g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g\\ Fe_2O_3: 1.9wt.\% \end{array}$	20 ↓ 36°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	192	Sapphire	hexagon plate, max.1.0mm grain, no color (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-TN7	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.028g\\ Fe_2O_3 = 0.027g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g\\ Fe_2O_3: 2.6wt.\% \end{array}$	20 ↓ 36℃ /min 1,050 ↓ 5℃ /min 400	192	Sapphire	hexagon plate, max.1.0mm grain, no color (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-TT1	$\begin{array}{l} Al_{2}O_{3}=1.028g\\ Fe_{2}O_{3}=0.054g\\ PbO=6.866g\\ PbF_{2}=7.528g\\ Fe_{2}O_{3}:5.3wt.\% \end{array}$	20 ↓ 36℃ /min 1,050 ↓ 5℃ /min 400	240	Sapphire PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.0.5mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
SAP-TT2	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.028g\\ Fe_2O_3 = 0.108g\\ PbO = 6.866g\\ PbF_2 = 7.528g\\ Fe_2O_3: 10.5wt.\% \end{array}$	20 ↓ 2°C /min 1.050 ↓ 5°C /min 400	336	Sapphire PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.0.7mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
SAP-TT3	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.028 \ g \\ Fe_2O_3 = 0.160 \ g \\ PbO = 3.43 \ g \\ PbF_2 = 3.76 \ g \\ Fe_2O_3 : 15.6 \\ wt.\% \end{array}$	20 ↓ 0.8℃ /min 1.050 ↓ 5℃ /min 400	144	Sapphire PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.0.3mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
SAP-TT4	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.028 \ g \\ Fe_2O_3 = 0.108 \ g \\ PbO = 13.74 \ g \\ PbF_2 = 15.06 \ g \\ Fe_2O_3 : 10.5 \\ wt.\% \end{array}$	20 ↓ 2°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	192	Sapphire PbAl ₁₂ O ₁₉	hexagon plate, max.0.8mm grain, light blue (transparent), aggregates of triangular hillocks on (0001) plane hexagon plate, max.1.0mm grain, light brown (transparent), aggregates of hexagon hillocks on (0001) plane
SAP-KH1	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020 \ g \\ Fe_2O_3 = 0.008 \ g \\ M_0O_3 = 14.393 \ g \\ Li_2O = 0.299 \ g \\ Fe_2O_3 : 0.8wt.\% \end{array}$	20 ↓ 4°C /min 1,050 ↓ 5°C /min 400	168	Sapphire	hexagon plate, max.0.7mm grain, dark blue (transparent), star figure aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-KH2	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020 \ g \\ Fe_2O_3 = 0.008 \ g \\ M_0O_3 = 14.393 \ g \\ Li_2O = 0.299 \ g \\ Fe_2O_3 : 0.8wt.\% \end{array}$	20 ↓ 15℃ /min 1,050 ↓ 5℃ /min 400	168	Sapphire	hexagon plate, max.0.3mm grain, dark blue (transparent), star figure aggregates of triangular hillocks on (0001) plane
SAP-KH3	$\begin{array}{l} Al_2O_3 = 1.020 \ g \\ Fe_2O_3 = 0.008 \ g \\ MoO_3 = 14.393 \ g \\ Li_2O = 0.299 \ g \\ Fe_2O_3 : 0.8wt.\% \end{array}$	20 ↓ 15℃ /min 1.050 ↓ 5℃ /min 400	168	Sapphire	hexagon plate, max.0.8mm grain, dark blue (transparent), star figure aggregates of triangular hillocks on (0001) plane

Table 5. Results of the synthetic experiments for Sapphire by flux-method



1mm



Fig. 3. Stereoscopic photographs.
(A) sapphire (SAP-KH1-S), (B) sapphire (SAP-KH3-S),
(C) sapphire (SAP-TT1-S), (D) PbAl₁₂O₁₉-phase (SAP-TT1-P)

 $MoO_3 \ge Li_2O を用いた run では、それぞれ 14.393g(100mmol)、0.299g(10mmol) と固定し、PbO と PbF_2 を用いた run では、それぞれ 6.866g(30mmol) と 7.528g(30mmol)、3.430g(15mmol) と 3.760g(15mmol)、13.740g(62mmol) と 15.060g(61mmol) と変化させて投与している。昇温率は 0.8℃/min ~ 36℃/min とか なり変化させているが、降温率は 5℃/min に固定している。加熱最高温度は、1,050 ~ 1,100℃ と変化させ、最高温度での加熱期間は、最小 144 時間から最大 336 時間とかなり変化させている。$

フラックスとして MoO₃ のみを用いた run では,最大 0.7mm 程の淡青色六角板状透明結晶が得られた。 フラックスとして MoO₃ と Li₂O を用いた run では,最大 0.8mm 程の濃青色六角板状透明結晶が得られた (Figs.3A & 3B)。Fig.3A は,run no.SAP-KH1 で得られた生成物の実体顕微鏡写真であるが,大小様々な 六角形状濃青色サファイアの単結晶を認める事が出来る。三方晶系であるからか,3方向に色の濃い部分 を認める事が出来るが,所謂スターサファイアの原型とも考えられる代物である。Fig.3B は,run no.SAP-KH3 で得られた生成物の実体顕微鏡写真であるが,濃青色六角薄板状サファイア結晶の集合体である。六 角薄板状である事は,走査型顕微鏡で拡大して観察すると良く判る。

フラックスとして PbO と PbF₂ を用いた run では、着色剤の Fe₂O₃ の量が少ない場合(1.9 ~ 2.6wt.%)は、無色透明な六角板状結晶が、又着色剤の Fe₂O₃ の量が多い場合(5.3 ~ 15.6wt.%)は、淡青色透明な六角板状結晶(Fig.3C)が得られた。この場合、ルビーの合成の時と同じ様に、PbO+6Al₂O₃→PbAl₁₂O₁₉ の反

	<	,,	2 - 3			
	1				2	
$d(\text{\AA})$	Ι	hkl		$d_{\scriptscriptstyle obs}({\rm \AA})$	$d_{\text{calc}}(\text{\AA})$	Ι
3.479	75	012		3.493	3.482	61
2.552	90	104		2.557	2.551	100
2.379	40	110		2.385	2.382	37
2.165	1	006				
2.085	100	113		2.090	2.087	92
1.964	2	202				
1.740	45	024		1.743	1.741	35
1.601	80	116		1.604	1.601	83
1.546	4	211				
1.514	6	122		1.513	1.516	9
1.510	8	018		1.508	1.510	6
1.404	30	214		1.406	1.405	27
1.374	50	300		1.375	1.375	39
Rhombohedral, R3c			Rhombohedral, $R\overline{3}c$			
(hexagonal)			(hexagonal)			
$a = 4.758(\text{\AA})$			a = 4.764(3) (Å)			
С	= 12.991 ((Å)		<i>C</i> =	= 12.98(2)	(Å)

Table 6. X-ray powder-diffraction data for Sapphire (corundum), Al₂O₃

1, JCPDS Card No. 10-173 corundum, syn;

2, This study (Sample No.=SAP-KH1)

応で生成したと考えられる淡褐色を呈する六方晶系の PbAl₁₂O₁₉ 結晶も生成していた(Fig.3D)。すべての run で,X線回折によりコランダムの回折ピークを確認しているので(Table 6),サファイアが生成されて いると結論される。Figs.4A,4B,4Cに,合成されたサファイア結晶の走査型電子顕微鏡による SEM 像を示 す。Fig.4A は,Run no.SAP-KH2 で得られたサファイアの写真であるが,綺麗な六角板状結晶を認める事 が出来る。Fig.4B は,Run no.SAP-KH3 で得られたサファイアの結晶集合体であるが,Fig.3B の濃青色結 晶集合体の拡大写真である。細かい六角板状集合体である事が見てとれる。Fig.4C は,Run no.SAP-TN6 で得られたサファイアの結晶であるが,ルビーの場合と同じように(0001)面上に三角形の成長丘が数多く 観察される。Fig.4D に,合成された PbAl₁₂O₁₉ 結晶の SEM 像を示すが六角形の結晶成長模様を認めること が出来る。サファイアの合成実験の場合は,正八面体のスピネル結晶の生成は認められなかった。

(3) 4 軸 X 線回折法

今回の合成実験で得られたルビー(三方晶系)結晶、PbAl₁₂O₁₉(六方晶系)結晶、PbAl₂O₄(立方晶系, スピネル構造)結晶,サファイア(三方晶系)結晶を4軸X線回折計(Bruker SMART APEX II System, 50kV, 30mA, Mo-Kα, −173℃)を用いて,単結晶データを取ってみた。ルビー(三方晶系)結晶の a-b plane 投影図を Fig.5A に,a-c plane 投影図を Fig.5B に示す。赤軸が a 軸,黄緑色軸が b 軸,青軸が c 軸を,又, ピンク球がアルミニューム原子、赤球が酸素原子を表す。三方晶系結晶の典型的な原子配列を示す。空間 群は,R3c である。クロム原子は,量的に少ない為,これらの図には現れて来ないが,三価なのでアルミ ニューム原子の一部を置換して存在していると考えられる。次に PbAl₁₂O₁₉(六方晶系)結晶の a-b plane 投影図を Fig.5C に示す。赤軸が a 軸,黄緑色軸が b 軸,又,ピンク球がアルミニューム原子,緑球が鉛原 子,赤球が酸素原子を表す。六方晶系結晶の典型的な原子配列を示す。空間群は,P6₃/mmc である。これ もクロム原子は量的に少ない為、これらの図には現れて来ないが、結晶が淡褐色を帯びているので、クロム 原子がアルミニューム原子の一部を置換して存在していると考えられ,化学組成は Pb(Al,Cr)」2O10と表すの が適当であろう。さらに PbAl₂O₄(立方晶系,スピネル構造) 結晶の(111)面投影図を Fig.5D に示す。ピン ク球がアルミニューム原子、緑球が鉛原子、赤球が酸素原子を表す。立方晶系結晶の典型的な原子配列を示 す。空間群は,Fd3m である。これもクロム原子は量的に少ない為,この図には現れて来ないが,三価なの でアルミニューム原子の一部を置換して存在していると考えられ,化学組成は Pb(Al,Cr)₂O₄と表すのが妥 当であると思われる。



Fig. 4. Scanning electron microscope (SEM) images.
(A) sapphire (SAP-KH2-7), (B) sapphire (SAP-KH3-2),
(C) sapphire (SAP-TN6-1), (D) PbAl₁₂O₁₉-phase (SAP-TT2-P)

Ⅴ. 考察及びまとめ

(1) ルビーの合成

PbO- PbF₂系フラックス,着色剤としての Cr₂O₃を用い,ルビーの合成実験を行ってみた。フラックス としての PbO, PbF₂は,主成分 Al₂O₃のモル数にして 3 倍量を投入し,着色剤としての Cr₂O₃は,主成分 Al₂O₃に対して,0.8~4.9wt.% に変化させた。ほとんどの run で,淡ピンク色の透明な六角板状のルビー 結晶を生成できた。中央部に赤い玉状の部分が見られる結晶がしばしば得られたが,おそらく Cr が濃集し ている部分であろうと思われる。昇温率を 4,8,10,12℃/min と 4 通り,最高到達温度を 1,050,1.100℃ と 2 通り,加熱時間を 48,72,96,144,168hrs と 5 通り変化させて 9 回の run を行ったが,ほとんどの run で生成したルビー結晶の大きさは最大 1mm 程度で,結晶のサイズと加熱条件との明瞭な関係は見出せ なかった。副産物として多くの run で,淡褐色の透明な六角薄板状 PbAl₁₂O₁₉結晶を,又,Cr₂O₃の量を 3.9 及び 4.9wt.% にした run で,淡ピンク色の透明な正八面体をした PbAl₂O₄の結晶を得た。Cr₂O₃ の量を多く することによって,PbAl₂O₄の結晶が生じていることから,PbAl₂O₄の Al を置き換えて Cr が入ることによ り,このスピネル型の結晶の生成を容易にしていると考えられる。従って,化学組成は,Pb(Al,Cr)₂O₄ と 示すのが妥当であろう。

(2) サファイアの合成

MoO₃, MoO₃-Li₂O 及び PbO-PbF₂ 系フラックス,着色剤としての Fe₂O₃ を用い,サファイアの合成実験



Fig. 5. Ball-and-stick representation of synthesized single crystals.
(A) ruby, a-b plane; (B) ruby, a-c plane; (C) PbAl₁₂O₁₉-phase, a-b plane;
(D) PbAl₂O₄-phase, (111) plane
Pink ball is aluminum, red ball is oxygen, and green ball is lead.

を行ってみた。

MoO₃フラックスを使用した場合

フラックスの量をモル数にして主成分 Al₂O₃ の約3 倍とし,着色剤 Fe₂O₃ の量は,主成分の 1.7, 2.6wt.% の二通りで実験してみた。到達最高温度は両者とも 1,050℃であるが,昇温率は,前者で 3℃/min,後者で 3℃/min,降温率は,両者同じく 5℃/min であった。結果として,両者とも,淡青色で透明な六角板状の サファイアの結晶が生成したが,大きさは,前者で 0.3mm,後者で 0.7mm 程で,昇温率が大きい方が大き な結晶が生成することが判明した。加熱時間は両者で同じなので,昇温率が大きい程,フラックスが早めに 蒸発し,結晶成長に有利に働くことが理由として考えられるが,生成する結晶の大きさと昇温率,降温率と の関係を明らかにする為には,尚多くの run を必要とする。

② MoO₃- Li₂O フラックスを使用した場合

フラックスの量をモル数にして主成分 Al_2O_3 の MoO_3 を約 10 倍, Li_2O を約 1 倍とし,着色剤 Fe_2O_3 の量 は,主成分の 0.8wt.% に固定して 3 回の合成実験をしてみた。いずれの run 共,着色剤 Fe_2O_3 の量が 0.8wt.% と少ないにも拘らず,濃青色の透明六角板状サファイアの結晶が生成した。結晶の大きさは, 0.3 ~ 0.8mm で,最高到達温度が 1,100[°]C の run において一番大きな結晶を得た。

③ PbO-PbF₂系フラックスを使用した場合

フラックスの量を PbO, PbF₂共に、モル数にして主成分 Al₂O₃の 1.5 ~ 6 倍と変化させ、着色剤 Fe₂O₃ の量は、主成分の 1.9 ~ 15.6wt% とかなり変化させ 6 回の合成実験をしてみた。Fe₂O₃ の量が少ない(1.9, 2.6 wt.%) run の場合、無色透明な六角板状結晶が得られた。主成分とフラックスの量比を変えずに、

上野禎一・田浦靖子・原田圭輔・中矢 徹 谷川太一・原 光平・長澤五十六

56

Fe₂O₃の量を増やしていく(5.3, 10.5, 15.6 wt.%)と淡青色の透明な六角板状結晶が得られたが,濃度の違いによる色の違いはあまり顕著ではなかった。昇温率を変えたり($0.8 \sim 36$ °C/min),加熱時間を変えたり($144 \sim 336$ hrs)してみたが、生成する結晶のサイズとの明瞭な関係は見出せなかった。昇温率 2°C/min,加熱時間 192hrsの実験で、最大 0.8mmのサファイア結晶を得たが、生成する結晶のサイズと昇温率、加熱時間の明瞭な関係を導くためには、より多くの run を必要とするようである。副産物としての、淡褐色の透明な六角薄板状 PbAl₁₂O₁₉結晶が、ルビーの合成時と同様に得られたが、PbAl₂O₄のスピネル型の結晶を得ることは出来なかった。

Ⅵ. 総括

今回,フラックス法により赤色~淡ピンク色のルビー,淡青色~濃青色のサファイア結晶の合成に成功 したわけであるが,結晶形態(形と大きさ),色の濃淡とフラックスの種類と量,加熱条件(昇温率,降温 率,最高到達温度,加熱時間)との明瞭な関係を導き出すことは出来なかった。ファクターの数が多い為, 変化させる条件を1つにしぼり,数多くの実験を積み重ね,結果を綿密に解釈していくことが必要である。 フラックスとして,PbO-PbF2を用いると,PbAl₁₂O₁₉結晶やPbAl₂O4結晶を生成してしまうので,ルビー・ サファイアの合成には,このフラックスは向かないのかもしれない。いずれにしても,今回の実験は,ル ビー・サファイアのフラックス法による合成のアウトラインを示したに過ぎないので,これを足場に精力的 に数多くの実験を試行する研究者が続き,大きくて美しいルビー,サファイアの結晶を合成する条件を導い てくれることを切に願望する。かつ,この合成法は,大石他(2006)が述べている様に,大型の機器を必要 としない為,高校の理科クラブでも充分に取り組める内容を有している。鉱物合成の楽しみを味わいなが ら,鉱物結晶学や結晶成長学の基礎知識が身に付くという強みを持っており,高校生あるいは中学生が良き 指導者の元でこの研究に取り組めば,理科研究の裾野を広げ,将来,新素材の開発にも繋がることを考える と,大変有意義な研究テーマであることを示唆し,この報告を終える事とする。

参考文献

- 大石・近藤・小林・渡辺・若林・住吉 (1997):ルビー結晶のフラックス育成, 日本化学会誌 1997 no.2, 107-111
- 大石・手嶋・宮本・宮坂・鈴木 (2006): ルビー結晶の酸化モリブデン系フラックス成長, 化学と教育 54 巻6号, 356-358
- 田邊・阿部(2012):フラックス法を用いたコランダム結晶の合成,日本鉱物科学会 2012 年年会講演要旨 集, p.118
- 中尾・阿部(2013):フラックス合成コランダム結晶の表面形態,日本鉱物科学会2013年年会講演要旨集, p.89
- 上野・福森・狩谷・今井・長澤(2012):フラックス法によるイットリウムガーネットの合成,日本鉱物科 学会 2012 年年会講演要旨集, p.117
- 上野・原田・田浦・長澤(2013):フラックス法によるルビーの合成と副産物,日本鉱物科学会2013年年会 講演要旨集, p.118
- 上野・中矢・谷川・原・長澤(2014):フラックス法によるサファイアの合成と副産物,日本鉱物科学会 2014 年年会講演要旨集, p.106
- 原・上野(2015):フラックス法によるサファイアの合成,日本地学教育学会第69回全国大会。福岡大会講 演予稿集, p.76